

次の文章を読み、筆者の考える、SNSなどの「メディアを通じた食の視覚化」について要約し、こうした「食の視覚化」が私たちの食生活にどのような影響を与えているかについて、具体的な事例をあげながら、あなたの考えを八〇〇字程度で述べなさい。

SNSで共有される食べ物の写真（中略）は加工されたものも多い。あえて白黒にしたり、コントラストを強めたりするなど、見た目のインパクトを強める工夫がなされている。SNSでは、掲載された写真が実際の姿とは異なることが許容され、むしろ期待されてさえいる。普段の料理や食卓の風景を撮影したものであっても、非現実的な色にはしないまでも、陰影やコントラストの調整は、おいしそうに見せるために重要な表現手段となる。ただ、食べ物を食べるよりも見るものとして楽しむことがより重要になると、メディアを通じた食の視覚化は、食べること、さらには作ることを見えづらくする可能性も高い。例えば、SNSに掲載する写真を撮るために大量に料理を注文し食べ残すなど、罪悪感なく食べ物を無駄にすることにもつながりかねない。（中略）こうした問題の根幹にあるのは、SNSの写真が、皿に盛られた華やかな姿という食の一部のみを切り取ったものだということだ。その裏には、家畜を育て、漁をし、米や野菜・果物を収穫し、それらの恵みを加工したり、市場に流通させたりという、多くの人々の仕事関わっている。近年、「農場から食卓へ（farm to table）」^{ファーム トゥ テーブル}という言葉が注目されているが、生産現場から流通・小売を経て消費者のもとに届くまでの過程は、たとえば「農場からスマホへ」と変わっても忘れてはいけない。

久野 愛著「視覚化する味覚―食を彩る資本主義」（岩波新書 二〇二二年）より